

特42

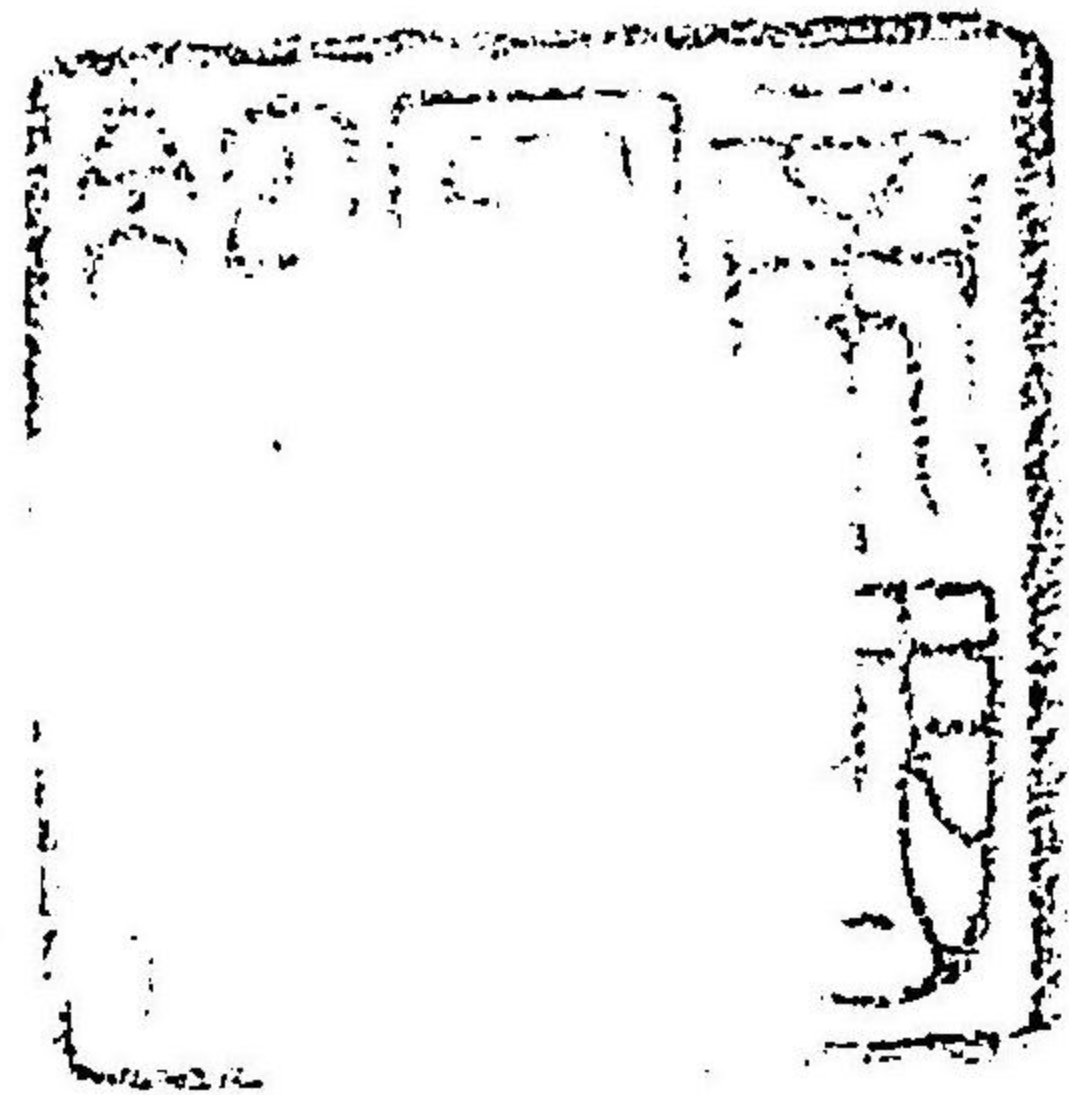
//

445

復吉詣
谷行
半部
禪師曾我
車僧

255

588



45. 8. 6

とぬ作上セイお車クルマあゝも所トコロを
都路ツルの直スグおさまるウケ時トキ代ヨり
柝トクはハほホまマれレきキふフえエ威イ光クワ景ケイら
ぬヌ光クワ源ゲン氏シさサくクおオかカまマしシ扱アツもモいイ君キミ
軒ケンをヲかカきキしシ後ゴ昔キョクのノ神カミ小コ可カ願ガン坂サカ又マタ
てんテンとトかカみミ思オモひヒつツ控コウ夜ヤ所トコロ見ミ日ヒ影カゲ
毛モ白シラ鳥トリのノ音ネ限リミりリ徳トク塚ツカ秋アキのノ山ヤマさサびビ

はいとハおオおオ乃ノ月ツキ意イ面オモ影カゲ溝コウはハまマ
傍カキやヤ園エン戸ドのノ宿ヤドもモ移ウツりリまマぬヌさサらラ
のノぬヌ塵チリ乃ノあアくクるル門カドのノいイあアのノ條サテ糸イト糸イト
さサくク見ミ渡ワタるル霧キリがガまマるルそソ
あアるルよヨりリくクほホのノまマえエそソむム村ムラもモみミ
ちチぢヂれレやヤかカるル野ノおオ狩カシ多タくクまマるル気キ
のノうウれレなナまマりリゆユくクさサらラぬヌ渡ワタるル也ヤ

大正の慶はよむ海も多きち誓て
 但昔乃浦曲は成程ぞあましく
 乃のキ子とえて孫方難き神の誓言ひ
 もいさ紀よき浦曲乃浪の瑞籟
 久し紀代とまも甲子後へ日の本
 神乃ち成の朽あましく和光同
 塵の結縁乃はも免ハ相成道利

物志とてくあれた迄國國民をあめ
 心と強ふあましく
 只今れ法事務目出たうの法あら
 税詞とまおらせられく税詞
 を中と母と神皇御幣を法を脱
 小祝詞と中をり謹上再拝敬白
 御成はしめぬの神樂ハ人の公女五

深・ら・が・り・な・お・木・陰・の・影・を・み
 ち・さ・し・ら・せ・い・ま・い・の・ま・を・く
 敷・お・う・き・つ・て・ま・う・け・る・人・影・の
 け・ら・人・を・あ・ら・ん 惟光 是・れ・お
 老・君・の・一・頃・の・御・影・を・み
 不・信・疑・ふ・と・し・ま・い・ぬ・人・も・有
 き・不・思・議・さ・ま 何・ら・さ・づ・か

老・君・の・一・頃・の・御・影・を・み
 と・し・ま・い・ぬ・人・も・有
 き・不・思・議・さ・ま 何・ら・さ・づ・か
 上
 玉・の・影・も・離・れ・ぬ・ま・く・せ・ぬ
 思・ひ・あ・ら・ま・中・く 宿 兼光
 金・前・の・影・も・初・め・あり・て・ぬ
 う・ら・あ・ら・ぬ・海・ら・は・空・お・な・ら・ぬ・も

う。ス。ヤ。マ。キ。ラ。ハ。報。復。の。う。ら。み。を。取。
 と。も。ろ。く。は。さ。ら。な。し。志。ら。ば。入。江。舟。
 さ。き。す。は。れ。た。あ。ま。り。な。あ。ま。り。
 眼。名。の。う。ら。復。ら。た。ま。も。復。ら。ぬ。お。も。
 親。孝。う。さ。し。う。あ。ら。ぬ。お。舟。の。舟。の。舟。
 り。ち。ま。り。た。ま。も。あ。ま。り。復。そ。と。め。
 金。お。ま。さ。ら。の。中。の。さ。ら。の。さ。ら。た。

あり。あ。ひ。む。む。の。報。め。さ。ま。く。復。吉。
 乃。器。お。れ。め。て。あ。ま。り。あ。ま。り。あ。ま。り。
 章。く。お。か。た。だ。よ。め。ま。の。あ。ら。の。さ。
 う。ね。こ。も。あ。ら。い。か。い。あ。ま。り。あ。ま。り。
 あり。お。ま。り。先。お。く。其。上。言。を。今。う。あ。
 も。や。あ。ま。り。あ。ま。り。の。え。み。あ。ら。い。
 日。の。逢。復。も。程。あ。ら。い。あ。ま。り。あ。ま。り。
 夕。の。逢。復。も。程。あ。ら。い。あ。ま。り。あ。ま。り。

小形らぬやうな事をも盡忠の度かきあきハ
 怪光も 乳母清助をとりくの
 忍び小をうくたのふまきの舞おらぬ
 ながら毛うけり舞 岸舞 毛づ
 ころあるきり 小愛文 毛 女あり
 あひきまのえりぬぬうは 女 女あら
 て難波乃りも じあは 行は城

思ひうあきむ 女あひの心
 入江は田鶴も
 声も まま 髪ほど 髪ゆるおから
 人目も 何れも 遠まほ 何れも
 思ひも 毛も 毛も 薄も あれて 行神
 飛をきも 毛も 昔も 小初る 娘 女だえ
 乃 鳩も 遠けりも 毛も 名残も じ

乃車ふめさ社くのほきつ下あや
いあ舟志。舟毅もあひくや明る
の浦曲乃ち存き一思ひ志わられ
う那

谷行

是のへう態野あまは木の坊了
帥乃阿園梨と中ス山伏きて作
梅も某が子と一人持きくゆが。彼
者乃父空あまのり。母さうりよらう
ひて作。又某あゆみ阿は飛入と仕
ムほごよ眼をしろたぬは今出京

仕のいかに案由中作子 誰子きく河
 入子んぞ。其解道乃河出にて作
 又子如子申子又松若行きく久子く
 寺子への上子り信子白子のさめぞ子た子む子ん
 舟河の凡子れ心子地子中子く籍子よ子事子ら子び
 人子言子語子道子断子ゆめくた子や子う子乃
 事子も子も子あ子げ子せ子れ子作子先子く子某子ら子事子り

たる由子中子久子く子ら子に子中子作子解子道子凡子
 河出子りて子る子河子方子へ子と子中子合子河子め
 乃河今子久子く子久子く子事子ら子信子ら子ま子の子
 松若申子れ子凡子の子知子乃子由子家子り
 作子如子申子様子は子信子ら子ぞ子凡子は子凡子地子の子
 早子答子ら子ら子凡子の子河子出子乃子思子ひ子は子さ子
 久子く子相子も子あ子で子た子う子ん子又子凡子も子同子

子峰入を徒程よ。所^{オシ}暇^{イハク}をのこあ
 に事りて非^{ヒテ} 空を峰入をらん
 の大事^{ダイジ}乃^{キヤウ}行^{コウ}とこそ承てくさきく
 松若も心^{オモ}徒^{トモ}きく非^ヒ 幼^コまの者^{モノ}
 の徒^トま^マの道^{ミチ}をての奇^キく非^ヒ 柵^{シラ}の
 めど^{メド}たらうや^ヤく^ク海^{ウミ}の^ノく^ク 是^{コノ}ら
 ぐ^グく^ク人^{ヒト}事^{コト}ら^ラす^スお^オま^マて^テら^ラ 子^コら^ラに

中^{ナカ}ま^マ力^{チカラ}な^ナ何^{ナニ}も^モあ^アて^テ非^ヒぞ^ゾ 松^{マツ}
 若^ニも^モ入^イの^ノ所^{トコロ}徒^ト中^{ナカ}は^ハう^ウす^スお^オま^マて^テ
 て^テら^ラや^ヤく^ク心^{ココロ}を^ヲ母^{ハハ}海^{ウミ}よ^ヨ中^{ナカ}徒^ト
 こ^コろ^ロく^ク山^{ヤマ}道^{ミチ}の^ノ難^{ナシ}行^{コウ}捨^{シテ}牙^ガの^ノ絆^{ハナ}よ^ヨ
 て^テ松^{マツ}の^ノ心^{ココロ}を^ヲら^ラぬ^ヌ事^{コト}に^ニて^テあ^アる^ル事^{コト}
 空^{カラ}上^{ウヘ}を^ヲ凡^{ソドモ}の^ノ心^{ココロ}地^チを^ヲ見^ミす^スの^ノ事^{コト}
 子^コあ^アら^ラぬ^ヌ事^{コト}に^ニて^テ思^{オモ}は^ハぬ^ヌ事^{コト}。

唯角のくくトマら子も母は凡乃心地トマ
 くく入の済オン新イリの為よトマ集らう
 ちおきく早候早あ早ら早い早よ早
 と母済トマよトマ中トマあトマうトマちトマおトマきトマくトマんトマんトマ
 集らうトマくトマ候トマ松トマ着トマ集トマ入トマれトマ候トマきトマらトマうトマ
 ちトマよトマ由トマ中トマされトマんトマ間トマ母トマはトマのトマ凡トマ乃トマ済トマ
 心トマちトマとトマいトマひトマ難トマけトマ捨トマちトマ乃トマ道トマとトマ申トマ

かのくトマくトマ候トマまトマまトマのトマ中トマあトマうトマちトマおトマきトマくトマんトマんトマ
 済トマ新トマはトマあトマ子トマ供トマ中トマ入トマれトマ候トマきトマらトマうトマまトマれトマ
 けトマちトマ中トマらトマまトマまトマ候トマあトマらトマ候トマ出トマえトマのトマ
 松トマあトマらトマ中トマあトマうトマちトマおトマきトマくトマんトマんトマのトマ凡トマ乃トマ済トマ中トマさトマまトマ
 子トマ社トマをトマ集トマあトマうトマちトマおトマきトマくトマんトマんトマのトマ凡トマ乃トマ済トマ中トマのトマ
 父トマ不トマあトマくトマ新トマ目トマよりトマ候トマひトマらトマりトマ子トマ
 乃トマひトマのトマ凡トマ乃トマ済トマ中トマあトマうトマちトマおトマきトマくトマんトマんトマのトマ凡トマ乃トマ済トマ中トマのトマ

トマ

トマ

定ぬきむしらの農はこき夜あつ
起きむしづらさる露こそ宿り滅
くせく 急の程よ是のや

可むしらは急く候。皆是なりあらう
まおまぐん 急候 候中ま
多れ候 何なりて候ぞ 道
よりの心ちまぐる物皆道に出て

左様の方を中へぬりみらく候
う礼めあらまぬ旅のつれきて有
べし。能く休み入 松若殿道より
何れをちて申密候先達子尋中
あうすおまぐる 山伏 急なみらく
松若殿風うとちと密候ぬ行と
急なる所心気あぐ候 候ん候

中まれの 何と松着を谷行ア
 おこあなまうすことおや 出むの
 大法乃るに 程は身誰とばや
 けの作者あたら 彼者の心牛解り
 不使のふ 大法乃るを念は
 中安きうすこと 念はく作
 くに松あ 幾はまけ け道み出る
 平

如極子遠 何れ者といふ谷行とて
 忽念を失ふ 身入むよりれ
 大法也 所らふ物もら行る
 今下るを たらん進退極りて
 作家の 程は出でいふちを捨ん
 りこそ 志をむすあれ 母れ所
 教まの 念をけし 深き思ふなれ
 平

まの候初も地まの縁法入る
 済ふゆ跡こそぞう候候といひ
 やまらるるれく管聲とあげ候
 むきぶ心ぞ哀なるツサシ山伏かきて面
 一同は復る候一ま世にあらびこと
 ら是の天候の明きうきん鑑たたり
 あまのまの谷行は社にあらひられ

早

和

先達を席をけ契りる中あれも
 何らひやねるもれくきんれと
 目もあやあく上あくあつトせれぬ
 みちあきともがえん又結たよもかくも
 あらざやと思ふまへ叶ぬなりぞ
 うねまのちちトれりて候
 まのせの命の心あり申しく死ヨル

谷行

十

初ビツ・あイらコばコらコばコらコのイ・致イすコのイ・もイ・あイらコばコらコ
名一切ツク有サイ為ヤるサ母サのイ・あイらコばコらコ幻イ泡イ・致イすコ
 如ニ露ヨ亦ヤ如コ雷ト・あイらコばコらコ如イ身イ・くイわイんイたイ
イ・こイろイとイもイ・たイまイひイきイらイばイ・やイきイ・えイ・出イ
 乃イ・好イ者イのイ・道イ・子イ・のイ・出イ・あイらイ・ばイ・らイ・火イ・宅イ・乃イ
 門イ・とイ・吉イ・中イ・らイ・でイ・終イ・安イ・らイ・ばイ・三イ・界イ・也イ・親イ
 子イ・恩イ・をイ・てイ・致イ・まイ・しイ・ひイ・らイ・ばイ・らイ・きイ・りイ

上先カ・かイ・くイ・てイ・好イ・割イ・まイ・うイ・つイ・おイ・とイ・らイ・はイ・面イ
 面イ・はイ・思イ・ひイ・まイ・りイ・邪イ・見イ・乃イ・親イ・をイ・とイ・まイ
 ぞイ・くイ・心イ・とイ・あイ・らイ・ばイ・らイ・彼イ・人イ・をイ・をイ・めイ・まイ・るイ
 不イ・物イ・しイ・らイ・ばイ・らイ・細イ・はイ・おイ・ひイ・をイ・るイ・尾イ
 あイ・めイ・つイ・ちイ・んイ・たイ・らイ・ばイ・らイ・こイ・あイ・まイ・らイ・ばイ・らイ・をイ
 りイ・あイ・いイ・たイ・らイ・ばイ・らイ・あイ・まイ・らイ・ばイ・らイ・はイ・あイ・まイ・らイ・ばイ・らイ
 たりイ・くイ・はイ・日イ・のイ・たイ・まイ・きイ・らイ・ばイ・らイ

閑山後優婆塞再子大聖不動明
 王女素のくひらを松若殿乃所命を
 二交タビそせのせやあうすおまぐん
小先 是を志のくひらに申の法言や
 大聖不動明王乃所命を
 時よてころの閑山後優婆塞
 二交そせのせやあうすおまぐん

松若殿の所命をそせのせや
 ありおむ由言のせや
 乃力社のみまほう仍我おも是
 寺の初念のあうすおまぐん
 極毛所道はまきた理り心家
 有様を見えおまぐん心那
 かりとも年月友の輝うくお大聖

悲乃ほ手に發とありて善哉善哉
 孝行切あるらむを感するぞと
 一あらき餘なきがへ共の
 片手輝ららむはうあまたちよ
 きつともりあやきう海乃雲
 霧のまやりのまの人の目こそ
 からさねも城のわらまね岩橋と

大寮うきてまおくと大い取
 うけらるるを後
 うせみたり

半節

^早是の都は云野雲林院に住居する僧
 きてん梅も秋夏も向花とて立ぬや
 安居まことくに成るば成また花と何
 片の花の供養と云行り中とある教自
 立花位養るるる志那情草木たりと
 ともげ花廣林子開きりありあは心あり

いふにやあまはくしてさあ蓮一葉
妙興の影自たすけ結縁の草
本國志意皆成修道會釋手にて付た
まはくするはあづからに世の佛はたむ
引思得中あまはく草花はまはく
まはくして中まはくするのあまはく
独りあまはくまはくするあまはく

花をまきおぞ上ニテカレ愚の僧ははなれ
たうははたの物あるはあまはく
所務せしむる志なから名を人女子を
志す填海はかりたまはくまはく
理りあるはあまはく花はまはく
あまはくはあまはく花はまはく
あまはくはあまはく花はまはく
あまはくはあまはく花はまはく

窓あぬ雲ははやとあるを浪を
 春ら浪のよるを頼まはと冒
 を勝たまの物ごと焚物て社
 そはともたあたそははるくみし
 祀の文息をわらわ祀を文考
 行ひ乃宿りなまを申つ常々を
 ぬらひのまをまをわの神の音

鐘を志きりよは東雲
 回も成ぬ舞の無きよと文乃
 中より切ぬあまよと物ほ乃宿り
 まの東部はうちまをまを
 とまの成よるあ

禪師曾我

教子^{ツレテ}苑^ノ名^ト殊^トは^ハく^ハ香^ガさ^トり
送^{ヨク}果^ク尻^シう^シあ^ハ 是^レ曾^我兄^分の

今^レは^レ位^ニや^ハ鬼^トま^シ園^ノ節^ヲま^シふ^ル極^メも^ハ兄^分

乃^ハ人^ノい^ハぬ^ルさ^ハあ^ハ 廿^八日^ノ夜^ヲみ^まく^ル患^ハを^シ

形^ノへ^ハ患^ハび^入る^ルと^ハ敵^トを^シ対^シを^シ身^ノも^ハ即^チ

座^ニ討^ツき^給ひ^てハ^ハ我^レ兄^分を^シ以^テ供^ト

287

丁

内中より伊後の九郎助宗が来たなり
急しめて門を閉ぢり 助宗の行乃
為よは出でて我 鎌倉殿よの
揚とあつて事なすのさなりと
く出入り 助宗を某が討手
為とすく 事常にお死し
名知あらずと事をも 柁長を

上日 河津の三島が来つた久と乃孫
墨江の下は悪厚の鐘悪く降伏
の鉄三尺の長刀指挿したり
さ柄こそなうりま祀
宗と来戸を聞いて切く出ま
元は近付はあちまあ射され
と事柁長は田のお三郎が

かゝと長刀を返法師の切やう
かき長ぐけあり。南無ほと帝や
かきへはつのかとて思ひぬ
かきへはつのかとて思ひぬ
かきへはつのかとて思ひぬ
かきへはつのかとて思ひぬ
かきへはつのかとて思ひぬ
かきへはつのかとて思ひぬ
かきへはつのかとて思ひぬ
かきへはつのかとて思ひぬ
かきへはつのかとて思ひぬ

の介送り退の具送り長刀投捨
の介送り退の具送り長刀投捨
の介送り退の具送り長刀投捨
の介送り退の具送り長刀投捨
の介送り退の具送り長刀投捨
の介送り退の具送り長刀投捨
の介送り退の具送り長刀投捨
の介送り退の具送り長刀投捨
の介送り退の具送り長刀投捨
の介送り退の具送り長刀投捨

神

車僧

^上車^下僧^上 候^下乃^上世^下多^上之^下車^上僧^下く^上と^下も^上存^下れ^上眠^下
^下の^上ま^下く^上降^下曇^上お^下ら^上ぬ^下倉^上た^下え^上
^下乃^上雲^下く^上ち^下る^上也^下破^上跡^下た^上山^下
^下の^上ひ^下ま^上毛^下蓋^上そ^下く^上重^下れ^上る^下の^上
^下井^上の^下い^上ら^下る^上床^下た^上手^下枕^上か^下り^上を^下
^下も^上白^下妙^上た^下か^上ま^下程^上あ^下く^上ぬ^下ら^上日^下暮^上

車僧

一

乃^上三界無安猶如火宅ニ出^ス
 乃^上車僧邪ニめぐるも^ト出^ス
 道ありき中ありのり得たりく
 又ましく念^上心^トを^レの^ル雲^ニ氷^ニを^レく^ルが^レぶ
 後^上そ^レら^も冷^マる^も山^ノ風^ニも^レ声^トに^レほ^ス
 ごと^ト巖^トと^レよ^レむ^レ遠^ニを^レぶ^レあ^レび^ク車^ノ路^ト
 昔^上あ^レれ^もわ^がま^もむ^かつ^てあ^ること^ト

やま^ノあ^ら坊^ノ庵^ノ室^ノ小^ノ河^ノ入^ノあ^らむ^く
 る^レは^レ僧^トよ^レば^レり^て文^ノ品^ノの^レ黒^ク雲^トは
 繁^クあ^るま^きり^く大^ノ意^ト先^ノ客^ノ山^ト
 志^ノ子^ノあ^らら^に電^ノ機^ノり^あつ^む人^ノ志^ト
 流^ノぎ^よま^の水^ト空^ノ中^ノは^レ山^ノ路^ト
 板^ノ車^ノ輪^ノの^レら^に車^ノ僧^ノ持^ノ和^ノま^のの
 あ^らら^し場^ノ心^ノ乃^レ心^ノ路^トあ^らあ^らん^や

然らば母と急法救心ふ引接ぶあくる
 伎僧魔道も心とよき車僧
 引悪しりまあ論るあ〜
 まじ世法あり 煩悩あまき菩提
 あまの佛のまじり念生もあり
 車僧たれども 太郎坊は行者も有
 初らば初るべし 徳をば行徳もたると

ま〜お〜く〜危車僧行くらま
 くに世あまたとよそれよのうら
 何らそ〜我念も〜より不増減
 あら面自の時節も 実相
 ろ子母のまらば中〜
 せら〜あ〜る〜意も〜い〜お〜さん
 あ〜る〜遊〜い〜ゆ〜あ〜我心と〜い〜ひ

上地
 てや車とて成るもた
 乃山の事登道まづら法乃又ち
 の遊行して貴賤の利益ありと
 のやあら家の浮世なる法あり
 かの電はふる又ち路の車なる
 ちの是びまゝの大電小電もわ
 上地
 空電山乃道ありと法のなる法路

下地
 たはらかな
 茶はゆる法雨そへ
 乃山行をさひる事
 法のかさく
 斗どもあわがへ
 此車傳の邪あら貴やあそ
 下地
 乃山行をさひる事
 法のかさく
 斗どもあわがへ
 此車傳の邪あら貴やあそ

int. 1887

1887

轉備

魔障マジショウをやカぬクるクをク大天ダイテン物のモノ父ウチのノ経キョウ掌ショウ志シ
てテこコろロろロ勢セイ子シをヲきキれ

轉備

S

255
533

復製不許

明治四拾五年五月二十五日印刷
同 年五月三十日發行

再訂正者

觀世清



發行兼
印刷者

檜 常 之 助

京都市上京區二條通麩屋町角

印刷所

江 川 堂

東京市四谷區傳馬町貳丁目

